

■ 基調講演

センシユアス・シティ 都市の本当の魅力を知る

都市の大きな魅力の一つは歩きたくなること

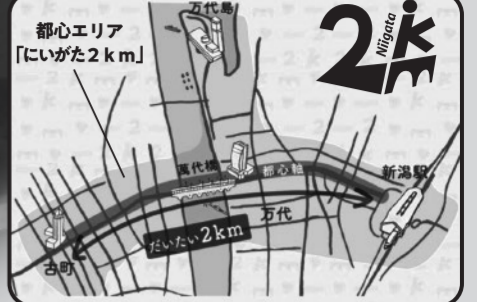
感覚的な都市の魅力を数値化しよう
と2015年に「センシユアス・シティ・
ランキング」を発表しました。都市の
中での人と人との関係性や身体心地
よさについて、居住者に調査したもので
新潟市は34都市中の38位、「街を感じる」「歩ける」と
いう指標の評価が低く、車社会的な性格が表れてい
ます。歩行者中心のウォークアブルな居心地良しなまちづく
りの取り組みを進め、魅力を高めていきましょう。



LIFULL HOME'S 総研 所長 島原 万丈氏

プロフィール

リクルート住宅総研を経て株式会社LIFULL(旧株式会社ネクスト)でLIFULL HOME'S総研所長に就任。他に一般社団法人リノベーション協議会エグゼクティブアドバイザー、内閣府地方創生推進アドバイザーなど。



にいがた2kmとは

新潟市都市政策部 係長 稲葉 一樹

「にいがた2km」は、新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ都心軸周辺エリアの呼称です。

現在、都心エリアでは、約60年ぶりとなる新潟駅のリニューアルをはじめ、都市構造が大きく変わろうとしています。こうしたタイミングをチャンスと捉え、「にいがた2km」を「本市経済・産業の発展をけん引する成長エンジン」としてさまざまな取り組みを推進しています。

また「にいがた2km」は「人中心のまちづくり」を目指しています。皆さん本日のシンポジウムを通じて、自分だったら何ができるかを考え、語り合っていたら嬉しいです。一緒に新潟の未来をつくっていきましょう。



にいがた2km 未来を語る シンポジウム

新潟駅から古町までの新潟市の都心軸「にいがた2km」の将来像を考えるシンポジウムが7月2日、新潟市中央区の新潟市民プラザで行われました。

にいがた2kmを自分たちの手で、もっと楽しく、魅力的な場にしてこうという取り組みが広がろうとしています。



シンポジウムの詳細はこちら

バスタ新潟(仮称)は都市のにぎわい創出に貢献できる施設に

新潟市と一緒に新潟駅南口で整備するバスターミナル「バスタ新潟」(仮称)をにぎわい創出に貢献できる施設にしたい。そしてやすらぎと萬代橋は人中心のまちづくりの要諦、パリアフリー化などあらゆる人が利用できるようにすることも魅力が高まるのではないだろうか。



北陸地方整備局長(当時) 内藤 正彦

歴史地区の古町を野点でつないで誘導

みなとびあ(新潟市歴史博物館)を起点に、旧小澤家住宅など古町エリアに点在するスポットに赤い傘を立てて野点風に。傘を目印に歩けるし、一体感も出せるのでは。みなとびあは博物館利用者以外にも目的の地化してもらう仕立てはできるはず。新潟駅から萬代橋を渡るとガラッと雰囲気が変わるような仕掛けで楽しませたい。



マチアケ 片桐 誠司氏

にいがた2kmの中には萬代クロッシングと西堀ローサ、二ツの地下空間が、萬代クロッシングはガラス面を鏡としてストリートダンスの練習に

来る若い人が多いのでスケボーなどのストリート系の人たちにも広がればと思います。西堀ローサは路地裏の夜を分けて活用すると面白いアイデアが生まれる。



新潟法律大学3年 大澤 優月氏

■ トークセッション

にいがた2kmは街の「顔」 皆で一緒に未来を創造しよう

にいがた2kmは都市の成長エンジン、8区のハブに

新潟駅の高架化で、鉄道で分断されていた市の南北が直結します。にいがた2kmを、緑あふれ、人、モノ、情報が行き交う活力あるエリアにしていこうと、新潟市の経済・産業の発展をけん引する成長エンジンにしていきたい。一緒に未来を想像して、つくっていきましょう。



コーディネーター 新潟日報社 総合プロデュース室長 大塚 清一郎



新潟市長 中原 八一

誰もがまちづくりに参加できる仕組みづくりを

万代クロッシングを夜間、早朝に活用しては、始発待ちや朝の活の場、朝市の開催など、人が集まる場所に、災害時の避難場所や備蓄倉庫としても使えます。青年会議所に所属しているのでまわりの関係者には、接点を持っての仕組みがあると良いですね。



新潟青年会議所 輪倉 大流氏

■ パネルディスカッション

各エリアの可能性を 掘り起こして 新潟をもっと素敵な街に!

子育て世代になった時の新潟を想像して

やすらぎだけだけでなく、移動販売船や水上オフィスなど信濃川の水上空間も活用できたら。にいがた2kmではシェアサイクルが整備されていますが、子どもやお年寄り、ファミリーで利用できるモビリティも望めます。まだ一度しか新潟市を訪れたことがない両親に「良い街」と言ってもらえるよう、魅力をつくってほしい。



同志専門職大学4年 後藤 峰志氏

「にいがた2kmではまちの「奥行き」はある。今後はエリアごとにそれぞれの個性を伸ばして「幅」を持たせたい。

集まった人がまちづくりに参加できるように仕立てや、多様な活動を受け止める懐の深さが必要です。



コーディネーター 株式会社connel 代表取締役 萩野 正和氏(左) 新潟市都市政策部 小林 愛実(右)